

(1) 友達との関係を高める具体的な手だて

友達関係は、学校生活を送る上でも、児童生徒の望ましい人格形成にとっても重要なものである。

児童生徒が友達との関係を結び、互いに理解し助け合う関係を育てるためには、様々な教育活動を通して交流する場や機会を設定し、友情についての理解を深めたり、感情の交流を図りながら技能を身に付けたりすることが必要である。

ア 友達との関係を高めるポイント

- ◇ 友情の大切さ、よさについて理解したり、実感したりできるように働き掛ける。
- ◇ 児童生徒相互の感情の交流を促進する（自他の理解、自他の受容、信頼感の向上など）。
- ◇ 人間関係促進のための技能を身に付け、生かすことができるように働き掛ける。
- ◇ 互いに助け合う場を意図的に設け、経験の積み上げにより自信をもたせる。

イ 友達との関係を高める場や機会にするために

授業

- 多くの友達との交流を図る場として、2人組、グループ、学級全体での話合いの場や機会を設ける。
- 国語科との関連で、上手な話し方や聞き方などの技能を身に付ける場や機会を設ける。
- 道徳の時間では、友情についての考えを広げたり深めたりして道徳的実践力を高める。また、日常的な場面を想起させながら、あいさつ、言葉遣い、マナーなど気持ちのよい接し方をすることの意義を理解させる。

日常の場面

- 誕生日を迎えた児童生徒を祝う場や機会を設ける。
- 帰りの会やSHRで、互いを認める場、困ったことを出し合える場、ふれあい活動の場や機会を設ける。
- 全員遊びの日の設定など、休み時間や昼休みに多くの児童生徒がふれあう場や機会を設ける。
- 給食時間では、座席やグルーピングを工夫し、多くの児童生徒同士で会話ができる場を設ける。
- 掃除や係、当番などの活動で、友達と協力して行うことの達成感を味わわせる場や機会を設ける。

学年・学校行事

- かかわり合う楽しさや喜びなど、児童生徒が感情の交流を得られる集会活動などの場や機会を積極的に設ける。
- 行事等の事前指導で、「上手に頼む」など活動に必要な人間関係づくりの技能を学ぶ場を設け、行事の中で技能を活用し、事後指導で評価する場を設け、関係が円滑になった、充実したなどの実感を味わわせる。
- 教育相談では、友達関係について話題にして児童生徒理解を深め、実態に応じた指導・援助をする場や機会を設ける。
(関係が良好な場合はよいところを認め、悩みがある場合は「辛いんだね」など温かく見守る姿勢で悩みを聴き、今後の在り方について共に考え、児童生徒の自己決定を促す援助をする。)
- 友達との関係に関する課題を共に考え、解決するための話合い活動の場や機会を設ける。

ウ 友達との関係を高める教師のかかわり

- モデルとなるように自分から児童生徒にあいさつしたり、話し掛けたりするようにしていますか？
- モデルとなるように教師として適切な言葉遣いや行動をしようとしていますか？
- 児童生徒一人一人のよいところを積極的に他の児童生徒に伝えるようにしていますか？
- 休み時間や昼休みなど、児童生徒と遊んだり話をしたりしながら、仲間に入りにくい児童生徒の援助（一緒に過ごす、一緒に仲間に加わるなど）をしていますか？
- 児童生徒の気になる言動は見逃したり、見過ごしたりせずにその場で声掛けをしたり、必要に応じて後で指導・援助をしたりしていますか？
- 必要な場合には児童生徒の行為の背景にある考えや気持ちを本人に代わって伝えるなど、児童生徒同士の関係づくりに心掛けていますか？
- 学級通信やPTAで望ましい交流の紹介など児童生徒のきずなの深まりを保護者に報告していますか？
- けんかが起こったら、直接介入だけでなく、児童生徒同士で関係の修復が図られるよう間接的な指導・援助をしていますか？ また、関係の修復を児童生徒と同じ気持ちで喜んでいきますか？



エ 友達との関係を高める教育活動例（小学校5年・学級活動）

(ア) 題材名「けんかの仲直り」

(イ) ねらい

けんかはどんな友達との関係においても起こる可能性があるが、関係の修復もまた可能であることを理解し、仲直りの仕方（技能）を体験的に身に付ける。

(ウ) 留意点

a けんかをしてしまう児童生徒の気持ちを受容的にとらえさせる。

b 日常ありそうな場面を設定し、「ごめんね」など具体的な言葉や行動を体験させる。

(エ) 活動の実際

過程時間	主な学習活動	留意点
導入 (5分)	<p>1 けんかをした経験について思い出す。</p> <p>2 学習のねらいを確認する。 けんかの仲直りのしかたを学ぼう。</p>	<p>○ あいこジャンケンで楽しい雰囲気をつくる。</p> <p>○ けんかをした理由やその時の気持ちなどについてふれ、仲直りの大切さについて話す。</p> <p>○ 仲直りのための技能獲得の練習(スキルトレーニング)を行うことを確認する。</p> <p>○ けんかといじめの区別をきちんと理解させておく。</p>
展開 (35分)	<p>3 モデル例を見て話し合う。</p> <p>Aさんは一緒に遊ぶ約束を破ったBさんに腹を立て、Bさんを見捨てました。数日後、後悔したBさんは謝ることにしました。 BI：(怒った顔で)ごめん。 BII：(小さな声で)ごめんね。 BIII：Aさん、ごめんね。約束破って。Aさんと遊べないとやはり寂しいよ。これからは気をつけるね。 A：私こそごめんね。私もつい腹が立って無視してしまったんだよ。Bさんまた仲良くしてね。</p> <p>4 望ましいやりとりを練習する。</p> <p>5 新しい場面で仲直りの仕方を練習する。</p> <p>Cさんは友達のDさんの悪口を言ってしまいました。話を聞いたDさんもCさんの悪口を言ってしまいました。後悔したCさんはDさんに謝ることにしました。</p>	<p>○ モデル例を見て、気付いたことを話し合う。</p> <p>○ けんかの場合、非は両者にあるという立場からどちらからでも謝り、早い関係修復が望ましいことに気付かせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ I：形式的と思われる謝り方 ・ II：気持ちが十分伝わらない謝り方 ・ III：望ましい謝り方（反省の言葉、今後のこと、仲直りしたい気持ちなどを伝える など） </div> <p>○ 謝られた後のAの望ましい対応についてふれる。</p> <p>○ 関係修復を円滑にするためには、先に謝る勇氣、相手に歩み寄る気持ちが大切であることに気付かせる。</p> <p>○ 3人グループで役割分担し、モデル例の望ましいやりとりを声に出して動作付きでやってみて、気付いたことを話し合わせる。(A役、B役、観察する人を交代で行う。)</p> <p>○ 3人グループで役割分担し、望ましいと考えるやりとりを声に出して動作付きでやってみて、気付いたことを話し合わせる。(C役、D役、観察する人を交代で行う。)</p> <p>○ 時間があれば、何組かのやりとりを見せる。</p> <p>○ 仲直りできた時のほっとした気持ちを実感させる。</p> <p>○ 友達関係で行き違いやけんかなどが起こる場合もあるが、そのことで関係を絶つのではなく一緒に乗り越えることが大切であり、友情が深まることにもつながることに気付かせる。</p>
終末 (5分)	<p>6 学習のまとめをする。</p>	<p>○ けんかに限らず、失敗や過ちなどについて「きちんと謝る。」ことが人との関係をつくる上で大切であることにもふれる。</p>